

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 向陽会
施設名	西田認定こども園
報告者	藤田 圭典（園長）
住所・連絡先	岡山県倉敷市西田15-1
	Tel 086-454-6112
	E-mail nishidahoikuen@gmail.com

○タイトル（保育計画）

『絵本 大好き♥ ～保育の中心に絵本を！～』

○主な助成備品

絵本、絵本棚

1. 保育計画策定の目的

最近はコミュニケーションをとることが苦手な子どもが増えています。その原因の一つに「言葉の力」の不足があります。絵本は「聞く力」「話す力」にもつながっています。さまざまな絵本にふれる機会を多くもてることで、豊かなイメージが広がるとともに、言葉への感受性も育っていきます。また、絵本を通して聞く力や話す力が育ったり、何よりも絵本の世界でワクワク、ドキドキして驚いたり感動したり、嬉しさや悲しさなどの気持ちに触れ、目には見えない思いに心が動かされることで子どもの想像力が鍛えられ、心の豊かさを育んでいけるのではないかという思いから、保育の中心に絵本のある環境を整えたいと思っていました。

開園以来、限られた環境の中で工夫してきましたが、子ども達が主体的に絵本と触れ合うことができる環境には程遠い状況でした。今回の助成金で「保育の一部」であった絵本が「保育の中心」における環境を整えることができれば保育そのものも豊かになっていくのではないかと思い、保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

○絵本が保護者も子どもも身近な存在になる環境を○

本園ではクラスの枠にとらわれず、子ども達が自分の興味を大切にさまざまな遊びを選んで参加できる保育環境を目指しています。そのため、今回の助成金で揃えさせていただいた絵本もクラスの絵本棚に分けるのではなく、全園児が自由に見て、手にとって、触れ合える場所、また、保護者にも子どもの興味のある絵本に関心をよせてもらうことができやすいような場所にと考え、必ず全員が通る廊下の一角に絵本コーナーを設置しました。

また、表紙が見えやすい絵本棚も整備でき、子ども達が絵本棚の前で意図して立ち止まらなくても生活の流れの中で自然と絵本の表紙が目飛び込んでくることで興味をもてるような絵本環境を整えることができました。季節や行事に関するもの、子ども達の興味のあるもの、その日にクラスで読み聞かせをおこなったもの、また保育士が子どもに投げかけたいものなどは目立つ位置に置くようにしました。



3. その成果と評価

○絵本を通して興味がひろがる○

園庭からも近い場所に多くの絵本があることで、戸外遊びの際に見つけた昆虫、草花など気になること、不思議に思ったことなどをすぐに調べる姿につながりました。そこで、調べる楽しさ、知る喜びを味わうことで、様々なことやものへの興味がひろがりました。また、園外へ散歩に行く際には、絵本コーナーから気軽に図鑑を持って出かけ、散歩先でも調べたいことに出会ったら、すぐに調べる姿につながりました。また飼育や栽培への興味もひろがり、飼育している生き物の飼い方、餌などを保育者に聞くのではなく、子ども達同士で調べ取り入れようとする姿も増えました。

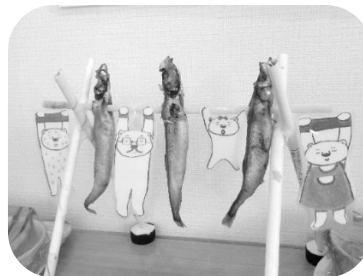
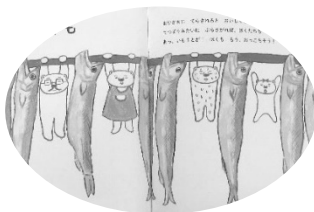


また、好きな絵本の中に出てくる野菜を栽培し成長を楽しみに世話をしたり収穫後にクッキング活動を楽しんだりと絵本を通して様々な方向へ興味がひろがり、その興味をもとに、保育内容も子ども達が主体的に関わるものが増えてきました。



○絵本を通して食がひろがる○

絵本に出てくる料理や食べ物を実際に給食で食べることを通して絵本と現実の世界が結びつくという楽しさを実感したり、登場人物の思いや考えを感じたりできればと『絵本給食』を取り入れました。好きな絵本の世界と食がつながることで苦手な食材も楽しみながら食べることができたり、逆に絵本から「これが食べてみたい」という言葉が聞かれたりするようになりました。



○絵本を通して表現がひろがる○

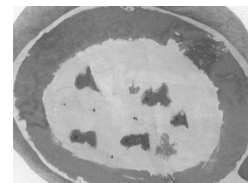
絵本の世界からイメージをひろげ、表現遊びにつながりました。ハロウィンでは、絵本の中の登場人物の仮装から自分のイメージする衣装を作るためにさまざまな素材や用具等にふれ、製作遊びを楽しみました。保育者も一緒に製作遊びを楽しみ、子どもと一緒に表現する楽しさを味わいました。

作る表現だけでなく、体を動かしての表現遊びにもつながりました。



○絵本を通して遊びがひろがる○

遊びの中に絵本の場面を再現することでイメージを共有しての遊びの幅がひろがりました。絵本を通してのごっこ遊びは、イメージがひろがりやすく、時にはセリフを口ずさみながら楽しく細かい部分まで再現遊びを喜びました。季節の遊びも絵本とつながることで、子どもがより意欲的に参加できる活動となりました。また、絵本の世界を再現するだけでなく年齢によっては、そこからさらに遊びがひろがり、一人ひとりがイメージした世界とつなげ、絵で表現する活動にもひろがっていきました。



○絵本を通してコミュニケーションがひろがる○

登降園時に保護者と一緒に通る廊下に絵本コーナーを設置したため、子ども達が保護者に「この絵本、今日読んだよ」「この絵本のくまさんがね…」などと絵本を通じた会話が聞かれるようになりました。子ども達は一生懸命、絵本の内容を保護者に伝えようと知っている言葉や表現法を駆使しながら言葉で伝えること、伝わる喜びを感じています。保護者も一生懸命、子どもが伝えようとしていることを理解しようと話を丁寧に聞いたり問いかけたりしてくれています。また、友だち同士でも「この絵本、すごくおもしろかったよ」「え～！今度、読んでみよう！」などとコミュニケーションがひろがっています。

4. 今後の課題と展望

これまでの成果をみると、絵本に気軽に触れる環境が整ったことで、保育者が意図的に保育の中に取り入れていた絵本が子ども達にとってより身近なものになり、あらゆる場面で子ども達が主体的に絵本にかかわるようになってきました。子ども達の絵本を通してのイメージのひろがりや学びは保育者の想像をはるかに超えるものであり、改めて絵本のもつさまざまな力や子どものもつ力に驚かされた1年となりました。

今後は、保育者自身も絵本に身近に触れる機会をもつことで、保育の幅をひろげていけるようにしていく必要性を感じています。そのためには、まず保育者自身が絵本を大好きになることが第一だと感じます。たくさんの絵本を知ること、絵本の世界の楽しさを味わうこと、そこから子ども達の興味に合わせて保育の中にどのように取り入れていけば、より絵本の力と子どもの力が重なり合ってさらに大きな力となり、保育そのものが豊かになるかを考えていきたいと思っています。

そして、少しずつ『保育の一部であった絵本が保育の中心』に位置付けられていけるよう、さらに子ども達が必要と感じた際には、今以上に自由に絵本コーナーを利用できる環境を整えていきたいと思っています。

また、子ども達が絵本をもっと大好きになるためには、保育者だけでなく保護者にも絵本を大好きになってもらうことが欠かせません。今は、各家庭への絵本の貸し出しをおこなえる環境までは整えることができていませんが、今後は各家庭への絵本の貸し出しもできるよう、さらに絵本環境を整え、大好きなお父さん、お母さんの声で絵本の読み聞かせをしてもらえる機会を増やせるようにしていきたいと思っています。

この度の貴財団の助成のお陰で、絵本の環境が大きく変化し、絵本のもつさまざまな力に改めて気づくことのできた1年間でした。改めてお礼申し上げます。

今後も、『絵本大好き』な子どもが増えるよう、この機会を大切につなげていきたいと思っています。

以上